

今後の予定

○令和6年1月18日(木)10:00～ 第3回推進会議(「構想」最終とりまとめ)

Task 1のサブタスクと主要な論点

※第1回「グリーン・コンビナートおおいた」推進会議 (R5.8.2) 資料より

Task 1-1 各種基礎調査

- 水素・アンモニア需要はどのような用途でどの程度存在するか
- 水素・アンモニア供給はどのような製造プロセスごとにどの程度存在するか
- CO₂排出量はどの程度で、その出自はどのようになっているか。また、そのうち回収ポテンシャルはどの程度か
- 再エネ賦存量はどの程度あり今後どの程度の増加を見込むか。また、そのポテンシャルはどのように運用されるべきか
- 開発が進む新規技術にはどのようなものがあり、いつ頃実装化されるか。また、大分コンビナートとの親和性はどうか

Task 1-2 「グリーン・コンビナートおおいた」モデルの検討

- 大分コンビナートの現状の特性（立地産業・企業、集積度合、製造品目、エネルギー消費量、使用エネルギー種）はどのようになっているか
- 「グリーン・コンビナートおおいた」の定義はどのようか。現状からCNに向けてどのようなトランジションが描けるか
- 「グリーン・コンビナートおおいた」構築にあたってはどのような機能が必要か
- それを補うためにどういったスキームが想定され、どういった企業・地域と連携することが望ましいのか。

Task 1-3 モデル実現に必要な インフラ・設備の検討

- 「グリーン・コンビナートおおいた」構築にあたり、必要となる設備・インフラ（荷揚設備・貯蔵タンク・水素化設備・輸送パイプライン）はなにか
- その仕様はどういったものが想定されるか
- その投資額はどの程度になるか
- インフラ・設備の（想定される）整備主体

Task 1-4 構想策定

- 大分コンビナートが目指す「グリーン・コンビナートおおいた」とは具体的にどういったものか
- 2030年・2050年のビジョン達成に向け、必要なアクションはなにか
- それらアクションはどの程度の期間を有し、いつから着手すべきか
- 複数のアクションはどのような相互関係があり、どのような手順で着手すべきか
- 中長期的のみならず、短期的（来年度等）にはどのようなアクションが必要となるか

次回、推進会議に向けての主要な検討項目

「グリーン・コンビナートおおいた」推進構想（案）のイメージ

1 大分コンビナートを取り巻く現状と課題

- (1) 国内外の動向
- (2) 本県産業の現状と課題
- (3) 大分コンビナートの現状と課題
- (4) 本県の地球温暖化対策の状況 など

2 大分コンビナートの現状の特性と将来的な可能性

- (1) 大分コンビナートの現状の特性
- (2) 大分コンビナートの強み
- (3) 水素等次世代エネルギーの需要ポテンシャル
- (4) 二酸化炭素の回収ポテンシャル
- (5) 再生可能エネルギーのポテンシャル
- (6) カーボンニュートラルに向けた先駆的取組事例
など

3 2050年に向けた大分コンビナートの予想される姿

- (1) 水素等次世代エネルギーの受入・供給拠点
- (2) 二酸化炭素の受入・搬出拠点
- (3) 脱炭素技術の実証・導入拠点
- (4) 県内他地域との連携拠点
- (5) 県外コンビナート地域等との連携拠点 など

4 「グリーン・コンビナートおおいた」の実現に向けた 想定ステップ

- (1) 水素等の利活用
- (2) 二酸化炭素の利活用 など

5 構想の推進とフォローアップ

- (1) 産学官の役割
- (2) 今後の課題
- (2) フォローアップ体制
- (3) 構想の見直し など